

非鉄

(4)

非鉄金属

三芳合金工業

熱間穿孔機を導入

航空機用銅合金を強化

銅合金の鑄造・鍛造品や押出品を製造する三芳合金工業(本社・埼玉県三芳町、社長・萩野源次郎氏)は新たに熱間穿孔機を導入する。注力製品として位置付ける航空機用軸受け素材のコスト競争力や納期対応力を強化して、中長期的に受注拡大を狙う。併せて新設備を生かした新規用途開拓も視野に入れる。中古設備を導入し10月までをめぐりに稼働を開始する。

同社ではブッシュと昨今では中国・欧米地域における需要が徐々に減少している。航空機関連需要は

力している。新規設備導入によって競争力を強化して、そこでの受注拡大を目指す。熱間穿孔機はパイプ形状の太物材料を製造するために使用する設備で、パイプの径を広げるために用いる。現在同社では航空機用の大型軸受け素材を鍛造や押出の組み合わせで

製造しているが、熱間穿孔機導入によって生産効率が大幅に向上。大型品のコスト競争力や納期対応力が高まる。加えてこれまで以上に長い素材の供給が可能になることから、顧客が切断するなどして使う場合の歩留まり向上にも貢献できる。熱間穿孔機は非常に大型の設備で、導入に向けて本社工場では基礎工事などを行っている。

三芳合金工業
本社工場に
引抜設備増設
車関連素材の
生産効率化

三芳合金工業は9月をめぐりに引抜設備を増設する。自動車関連素材の生産効率を高める事が狙い。引抜設備は棒状の銅合金を細く加工するための装置。同社では現在、朝霞工場(埼玉県新座市)に配備している。自動車関連素材での前工程となる鑄造を行っている本社工場にも新たに導入することによって生産効率が高まる。